

月刊

# 軽音楽部

発行：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会  
配布：全国2,040校の高等学校軽音楽部



写真は第5回 高等学校軽音楽コンテスト関東大会でグランプリを受賞した中央大学杉並高等学校のヨジショウです

第2回 全国高等学校軽音楽部

# オリジナルソング グランプリ



詳しくはこちら

バンド | 弾き語り | DTM | GarageBand | インスト (歌なし) | 校歌作曲



2024

# 10

VOL.79

生徒主体で行う部活動で得られるもの 羽佐田透一

愛知県高等学校文化連盟 事務局長

プロデュースする力を部活動で養う 大館瑞城

中央大学杉並高等学校 音楽部 顧問



月刊 軽音楽部  
バックナンバー



軽音楽部員必見  
デジタル版記事

軽音楽部にもマネジメントの発想を…  
軽音楽部の理解と教育的意義をより広げるために  
大会の「効果」と「注意点」-前編-  
活動内容に精通した先生の指導法 / 多様な才能を育む評価基準とは…  
軽音協イベント・カレンダー

次号は10月25日発行



全国学校軽音楽部協会

## 締切間近

オリジナル楽曲募集  
応募締切 10/31

# 全国の小中高等学校の 軽音楽部を支援する協会

現在、全国の高等学校では軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部が学校教育の一環として、「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション（意思伝達）」「クリエイティビティ（創造力）」「チームワーク（協働）」「エンターテインメント（顧客満足）」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動であると認知されてきたからだと思います。私たちは、情報誌の発行、大会や合同演奏会の開催、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行って来ました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

## Mission ～理念～

### 軽音楽部の諸活動を通して若い人材を育てる

## Vision ～目標～

- 1 軽音楽部の学校内外における認知向上を図る**  
部活動としての歴史が浅い軽音楽部は、偏見もあり一般的に正しい認知が低いのが現状です。軽音楽を通じた部活動の有意義さを学校内外へ広めていきます
- 2 社会や地域貢献を視野に入れた部活動の提案**  
軽音楽部の活動範囲は、日々の練習や演奏会出演、大会への参加だけにとどまらず、地域や行政とのつながりを生みます。軽音楽部の活動を通じた社会貢献を応援します
- 3 生徒による自主、自律した部活動運営の支援**  
グローバルな視点からの上位下達ではなく自主的に動ける人間、これからの日本社会が必要とする自律した人間育成を目的とした部活動運営の支援をします

#### ご支援いただいている特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク	名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	ギブソン・ブランス・ジャパン株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	フェンダーミュージック株式会社
大阪音楽大学	有限会社エムエージー
名古屋芸術大学	株式会社トップトラベルサービス
宝塚大学	株式会社福々家（モアリゾート、ホテル寺尾温泉）
日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校	株式会社サウンドハウス
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	

特定非営利活動法人  
全国学校軽音楽部協会  
keionkyo.org



■月刊 軽音楽部 VOL.79 ■創刊：平成25年12月18日（水）■新創刊：令和6年3月25日（月）■発行：令和6年9月25日（水）／第13巻10号通巻79号  
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校軽音楽部協会 JASLMC（Japan Association of School Light Music Club）  
〒224-0003 横浜市中区中川中央1-37-6-405 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900 E-Mail：info@keionkyo.org  
■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク

## interview



### 学校教育の視座

生徒主体で行う部活動で得られるもの……4

愛知県高等学校文化連盟 事務局長

羽佐田透一



### 優勝校顧問に聞く

プロデュースする力を部活動で養う……6

中央大学杉並高等学校 音楽部 顧問

大館瑞城

## contents

軽音楽部にもマネジメントの発想を……④	8
軽音楽部の理解と教育的意義をより広げるために……	10
大会の「効果」と「注意点」-前編-	12
活動内容に精通した先生の指導法③	14
多様な才能を育む評価基準とは……	15
軽音協イベント・カレンダー	16

### 音楽／エンタメ業界の仕事 2024

サウンドクリエイターの仕事 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	18
---------------------------------------	----

## From Chief-In-Editor

### 軽音楽部の新たな役割：学校教育の一環としての音楽活動

教員の働き方改革が進み、部活動の在り方が見直される中、軽音楽部もまた、その役割を再定義する必要が出てきました。演奏技術の優劣やライブ、コンテストへの出場を目指すなどの競技性が重んじられる傾向がありましたが、これからは音楽を楽しむことや仲間との協調性、責任感、社会性を育むことを通じて、生徒の成長を促す場として、その価値が見直されるべきではないかと思えます。軽音楽部での活動を通じて、生徒は多角的な成長を遂げることができるのではないのでしょうか。

例えば、バンドメンバーと1つの目標に向かって協力し、練習を重ねる過程で、協調性や責任感が養われます。また、学校行事や地域イベントへの参加を通じて、社会の一員としての役割を学び、コミュニケーション能力を向上させることができます。

コンテストへの出場も1つの選択肢ですが、大切なのは音楽を通じて成長し、豊かな学校生活を送ることです。音楽活動は生徒の自己表現の場となり、いわゆる自己肯定感として、自信や達成感を育むことにつながります。さらに、音楽を通して様々

な人と出会い、人間関係を築くことも可能です。

このように、軽音楽部は生徒が音楽を楽しむことを通じて、人間性を豊かにし、将来の社会生活に活かせる力を身につけるための貴重な場であり、競技性よりも音楽活動を通じて、多角的な成長を促すことを目指すべきではないのでしょうか。また、学校は生徒が音楽を通じて自己を表現し、創造性を育むことができるような環境を提供する必要があり、顧問の在り方も「ティーチング（技術指導）」だけでなく、生徒自身による成長を導く「コーチング」の役割が重要になってくると思います。

それでは、また次号でお会いしましょう。



### 三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

Email mitani@keionkyo.org  
Facebook yoshiyuki.mitani  
Instagram mitani.yoshiyuki  
X (Twitter) @mitaniyoshiyuki

学校教育の視座

高等学校における部活動は主体性と協働性、やり抜く力を育成する最適な教育活動である

# 生徒主体で行う部活動 で得られるもの

羽佐田透一

愛知県高等学校文化連盟 事務局長

羽佐田透一

大学院時のアジア放浪の旅を経て、1990年に愛知県立高校の教員になる。県教育委員会勤務6年、教頭8年、校長7年を務め、愛知県立安城高等学校長を最後に退職。2024年4月から愛知県高等学校文化連盟の事務局長を務める。

愛知県では、2022年（令和4年）度から愛知県高等学校文化連盟に軽音楽専門部が設立され、これまで以上に「部活動としての軽音楽部」の在り方が注目を集め、また、今後の隆盛が期待されています。そこで、今回は愛知県高等学校文化連盟の羽佐田透一事務局長に高等学校における部活動の意義や活動を通じて得られるもの、今後の方向性などについて伺いました。

●運動部のご出身とのことですが、文化部への印象などはいかがですか？

羽佐田：今年度から愛知県高等学校文化連盟の事務局長として、高校生の文化活動の振興に携わることになりました。きっかけは平成14（2002）年に愛知県教育委員会の生涯学習課に入り、文化振興担当になったことです。そこから愛知県高等学校文化連盟（以下、高文連）との関わりが始まり、アートフェスタ愛知県高等学校総合文化祭（以下、アートフェスタ）を中心に高校生の文化活動の振興に従事しています。アートフェスタ

を初めて観た時に「こんなに生き生きと、活発に活動しているんだ！」という目からウロコが落ちるような驚きがあったことをよく覚えています。文化部の生徒たちが発するパワーに大きく感動しました。

●部活動の存在意義や役割と地域移行の真意とは？

羽佐田：部活動は、社会で活躍するのに必須である「主体性」と「協働性」、さらに「やり抜く力」を育成する、最適な教育活動であると考えています。それらは、もちろん学習活動でも育成できるものですし、特に近年重視されている主体的・対話的で深い学びでは、知識・技能、思考力・判断力・表現力とともに主体性や協働性を育成することも目的とされています。しかし、自分の好きなことを自ら進んで、仲間とともに取り組む部活動としては、その後への影響力が違うと考えています。体育祭や文化祭などの学校行事でも同様の効果があると思うのですが、卒業後に高校時代を振り返った際、授業

内容と部活動や学校行事の思い出のどちらが記憶に残っているのかを考えても、その違いは明白ではないでしょうか。

実際のところ、地域移行は中学校では進んでいますが、高校では、まだ進んでいません。ただ、私は地域移行というか、そこで狙いとされている、顧問となる教員の負担の軽減や、中学校ほどではないですが、高校でも部員数が減つてしまいがち、部活動が成り立たなくなる……という懸念があるので、そのために、地域移行という制度が出てきたのは理解しています。

しかし、外へ出ていくと、実際に中学校の校長から受けた相談として「指導者がいないので、高校の顧問に指導者をやってくれないか？」とか「会場として、高校の体育館を貸してくれないか？」という話があり、指導者や実施場所の問題がクリアになっていない印象です。

また、家庭にとっても、生徒にとっても、移動時間や練習場所への交通費の問題など、部活動の地域移行はメリットばかりではありません。そういった諸課題を一つ一つ

励まし合いながら、最後まで努力を続ける関係性が求められます。

それは、何も特別なことではなくて、教育活動の一環であることを意識して行われている部活動では、普通に実現できていることだと考えています。私が勤務してきた高校でも多くの部で実現できていましたし、アートフェスタに参加している部でも、そのことを実感しています。

●大会至上主義や行き過ぎた指導が問題になりますが、部活動の意義を考慮すると、どんな方向に進むのが望ましいのでしょうか？

羽佐田：前提として、私は「勝つこと」をすべて否定するつもりはありません。勝つことで達成感が得られ、自己肯定感が高まるし、練習への意欲も高まるからです。ただ、結果だけを求めすぎると、主体性や協働性などの育成にはつながりません。ましてや、体罰に象徴されるような指導者からの強制による勝利の場合には、マイナスでしかありません。

ですので、生徒主体の活動であることは、部活動で最低限求められることだと考えています。その上で、大会や発表の場に向けて、自ら進んで仲間とともに努力を続けることが大切です。そして、大会で思うような結果が得られなくても、部員同士で振り返りを行い、改善を図ることに大きな意義があると思います。また、大会以外にも他校との交流や講習の場も生徒同士が刺激し合い、高め合う機会としても貴重であると思います。

●軽音楽部の顧問の先生方に一言、エールをお願いします

羽佐田：一言では、まとめられませんが、（笑）。軽音楽部は、生徒に人気がある期待されている専門部の一つです。高文連未加盟校でも軽音楽部がある学校が多く、軽音楽専門部の発展が高文連全体の発展につながることも期待しています。

実際のところ、今年度のアートフェスタにおいて「舞台部門」のオープニングアクトを愛知県立半田高等学校のフォークソング部が担当し、会場を大いに盛り上げてくれて、華々しく開幕することができました。来場者のアンケートでも「かつこ良くて、最高だった」とか「素晴らしい演奏で、感動した」など、非常に高い評価を受けました。

一方で、軽音楽部に対して、今でも厳しい目があることも事実です。服装などの生徒指導面の心配や大音量への苦情、校外での活動への懸念は払拭されています。それらを克服することができれば、さらに部員数も軽音楽部を設置する学校数も増えて、軽音楽専門部も発展できると思います。それは、そんなに難しいことではなくて、顧問の皆さんが教育活動の一環であることを意識して、部活動としての軽音楽部の活動を生徒主体で行っていたら、十分に可能であると考えています。顧問の皆さんの活躍に大いに期待していますし、軽音楽専門部の発展も祈念しています。



のが、顧問にとって必要なことだと考えています。また、顧問の先生も生徒と一緒に参加して、ともに専門的な知識や技術を高めたいければ、それも素敵なことではないでしょうか。

羽佐田：繰り返しになりますが、主体性や協働性、やり抜く力などが育成されるような活動ができれば、大いに役立つと思います。それらは、社会で活躍するために必要不可欠な資質です。そのためには、生徒主体の活動であること。挨拶やルール、マナーなどの集団としての規律を守ることで、生徒同士で助け合い、

優勝校顧問に聞く

オリジナル曲の制作から文化祭のテーマソングまで、クリエイティブな部活動を目指して…

# プロデュースする力を 部活動で養う

## 大館瑞城

中央大学杉並高等学校 音楽部 顧問

### 大館瑞城

2002年より現職。国語科教諭、主に現代文領域を担当。全国学校軽音楽部協会の「顧問集会」にて、第6回と第16回で「作詞指導」について発表。執筆・管理している音楽部のブログをはじめ、YouTubeや各種SNSをご覧ください→「中大杉並 音楽部」で検索。

●「第5回 高等学校軽音楽コンテスト関東大会」でのグランプリ受賞、おめでとうございます。受賞した「ヨジショウ」は、どんなバンドですか…

大館…高校1年生の時に同学年の5人でスタートして、昨年の11月にドラムが2年生の後輩に代わりしました。それからは、ずっと今の編成で活動しているバンドです。

関東大会で演奏した「つくる」は、6〜7曲目くらいのオリジナル曲です。どの合同ライブでも演奏できるのは2曲のところが多いのですが、本校のバンドは最新の2曲を除いて、ほとんど過去のオリジナル曲がお蔵入りしていく感じなので、どのバンドも自分たちの持ち曲が何曲あるのか、曖昧なところがあります(笑)。そういう意味では、自信を持って、納得して作り上げたものは3曲くらいだと思います。常にオリジナル曲を作り続けて、もつともつ…という探究心で取り組んでいる感じですよ。

●現任校への着任時期や音楽部の顧問歴

大館…私は2002年から現職です。音楽部の顧問も2002年から務めており、現在に至ります。私自身は高校生の頃に少しキーボードを弾いていたくらいで、今はプレイヤーという自覚はまったくありません。実は、私も本校の卒業生で、入学と同時に音楽部に入部したのですが、すぐに辞めてしまった口で、高校1年の6月で退部しました(苦笑)。今年度の1年生が第62期生なのですが、音楽部自体は、本校の創立当時からあったと聞いています。なぜ「音楽部」と名乗っているかというと、当時は音楽部と言いつつ、吹奏楽をやったり、マンドリンを演奏する部門があったり、合唱やジャズ、フォークを演奏する部門もあるなど、総合的な音楽系の部活動だったそうです。それが、徐々にフォークに一本化されていき、いわゆる「軽音楽」の形態になったと聞いています。

●普段の活動内容と年間を通した行事は

大館…週2日、全員が集まって、パート練習に取り組んでいます。最初にミーティングを行い、今後のスケジュールや確認事項、情報共有を済ませた上で、各パートに分かれての練習を1時間くらい行っています。これを週2日のペースで取り組むつ、パートによっては、もう1日、全員が集まっているところもあります。それ以外は、下校時刻の18時まで、バンド単位でローテーションを組みながら、練習に取り組んでいる感じですよ。本校は大きな音を出せる場所が1部屋だけなので、必然的に街のリハーサル・スタジオの利用率も高くなっています。

大館…週2日、全員が集まって、パート練習に取り組んでいます。最初にミーティングを行い、今後のスケジュールや確認事項、情報共有を済ませた上で、各パートに分かれての練習を1時間くらい行っています。これを週2日のペースで取り組むつ、パートによっては、もう1日、全員が集まっているところもあります。それ以外は、下校時刻の18時まで、バンド単位でローテーションを組みながら、練習に取り組んでいる感じですよ。本校は大きな音を出せる場所が1部屋だけなので、必然的に街のリハーサル・スタジオの利用率も高くなっています。

大館…週2日、全員が集まって、パート練習に取り組んでいます。最初にミーティングを行い、今後のスケジュールや確認事項、情報共有を済ませた上で、各パートに分かれての練習を1時間くらい行っています。これを週2日のペースで取り組むつ、パートによっては、もう1日、全員が集まっているところもあります。それ以外は、下校時刻の18時まで、バンド単位でローテーションを組みながら、練習に取り組んでいる感じですよ。本校は大きな音を出せる場所が1部屋だけなので、必然的に街のリハーサル・スタジオの利用率も高くなっています。

●貴校ならではのユニークな活動は…  
大館…オリジナル曲を収録した「コンピレーションアルバム」を15年以上、毎年制作しています。サブスクでの配信に切り替えてから5年目になりましたが、楽器や機材の準備はもちろん、レコーディングやミックスも自分たちだけで行い、今年は24曲を収録しました。それまでは、CD-Rに書き出して、文化祭で配布するために、700組を用意していました。当時から2枚組だったので、1400枚のCD-Rを40〜50人の部員で分担して、焼いていたんです。今では随分と楽になりましたが、文化祭前になると、必死でCD-Rに焼いていたのは懐かしい思い出です(笑)。

大館…生徒はもちろん、保護者会でも親御さんには「ミュージシャンを育成する考えはありません」ということをお伝えしています。ミュージシャンになるための力をつけるのではなく、本校の音楽部では「プロデューサーになるための力を養う」ということに主眼を置いていくんです。高校を卒業して、大人になっていく中で、「何かを」プロデューズする能力」というのは、どんな場面でも活かせることですし、あらゆる職業で役に立つと考えています。オリジナル曲制作の面で言うと、「ダメ出しはするけれど、コードやフレーズの提案はしない」というのを指針にしています。よく生徒たちはコーチに対して、「これが正解ですか?」みたいな素直ぶりを見せることがあるのですが、いろいろと提案したくなってしまう気持ちもグッと堪えています(笑)。コンテストでの受賞は生徒たちの目標ではありますが、受賞させることを顧問の目標とはしていません。

●貴校の音楽部を言葉で表すと、どんな部活動ですか…

大館…学校の中で「最もクリエイティブな部活動である」という点です。これは、初めて取材していただいた当時(2013年)から、変わらずに掲げています。本校の音楽部が目指しているのは企画力や段取り力、実行力をつけることです。その根底として、コミュニケーション能力を高めることも大切にしています。

●部活動を運営する際の方針や目指しているもの

インタビュー／文・三谷暢之



顧問の役割のひとつとされる、軽音楽部という部活動のマネージメントとは何か？

# 軽音楽部にもマネージメント

## の発想を：④活動のハンドリング

成することは二次的要素であり、真の目的ではありません。

### 活動の根本にあるべき理念

基本的に、普段の練習は上級生が主導するべきです。指導員がいたとしても、練習メニューやスケジュール管理、練習場所のローテーションといった実際の運営は、生徒自身が主体となって行うことが大切です。顧問や指導員が活動そのものを引っ張っていると、いつになっても「やらされている感」が払拭できません。周りの大人はサポート役に徹している方が、生徒たちの成長や部の継続のためにも有効です。時間をかけてでも、生徒主体の状態に持つていくことがハンドリングの要だと思われまます。

実際の技術面やアンサンブルの指導に際しても、顧問や指導員のオーバードューリスに注意することが大切です。専門的な知識がある方もそこはグッと我慢をして、基本は先輩が後輩を指導し、自分たちで答えを見つけてさせていく活動が理想です。うまくいかなくても失敗から学ぶこともありまます。普段の練習は個人練習、バンド練習、ライブ練習と内容と目的をしっかりと分けることで、目標を設置することができます。

また、軽音楽部は「バンドが集まってできているのではなく、部員がバンドに分かれているのだ」という原則に立ち返れば、部員全員で行うミーティングや全体練習を日々の活動に取り入れることも

軽音楽部という部活動は、現在最も人気のある部活動の一つです。しかし、その歴史はまだ浅く、運営や練習方法、機材や環境整備などのノウハウも少ないため、多くの顧問の先生方が悩まれています。抱えている問題は各校で違うと思いますが、部の運営に必要な「部員」「機材」「活動」のマネージメントについて考察していきます。最終回の今回は、未来志向な日々の活動の方向性について考えていこうと思います。

### 時代に合った活動を

現在、教員の働き方改革や部活動の地域移行、少子高齢化など、部活動に関係する環境やシステムが大きく変わろうとしています。中には、部活動そのものを根本から見直すべきではないかという意見もあるほどです。部活動とは何か、今後どうあるべきかは、国や自治体の方向性だけに任せておくのではなく、学校ごと、部活動ごと、さらには保護者や地域住民、国民全員が日本の未来の教育問題として捉える段階に入ってきています。

軽音楽部という比較的新しい部活動では、単に楽器やポピュラーミュージック（軽音楽）の追求だけではなく、文部科学省の言う「社会的自立と社会参画の力を育む教育」：すなわち、自分の意見を持つて様々なディスカッションできる社会人、主体性を持ち、発信力のある社会人になるためのスキルを育む活動が可能です。社会が上位下達の時代から個性や多様性を尊重する時代に変化している今、軽音楽部がそれらを肯定的に内包し、現代、そして、未来を担う日本人像にマッチした部活動であると感じられている方も多いのではないのでしょうか。逆説的に言えば、そういった部分を重視し、時代に合った活動へのハンドリングが求められているのだとも言えます。

### 「社会性」を育むこと

個々の多様性やアイデンティティを大事にしながら、「バンド」というチームの中で主張と妥協を繰り返し、演奏や楽曲を作り上げていく行為は、社会に出てか

効果的です。部長や幹部部員を中心に、団体としての意識を持たせることが強固な部活動への礎となります。その他、文化祭ライブや合同演奏会などのイベント制作を部で行ったり、音楽合宿を開催することなども部活動だからこそできる集団行動の経験です。もちろん、自由参加が原則な部活動では強制的に：とはいきませんが、経験すること知ることは成長の第一歩となる貴重な体験です。演奏会や大会への参加はわかりや

すい中間目標設定ですが、実力が発揮できたかを自己評価し、他の出演者から刺激を受けることができます。そういった意味では、出演しない部員も会場へ来て仲間の演奏や自校以外のバンドの演奏に触れることも大切な経験です。現場でのリアルな体験は必ず何かを感じ、部員たちにとって、次への良いステップとなります。どんな形であれ、様々な行事に参加しやすい空気を作ることも、大事なハンドリングの一つと言えます。

### 社会に出るためのスキルを育む

軽音楽部はその性格上、学べる（経験できる）事柄に幅があります。部員数や練習場所の数などによっても大きく変わると思いますが、普段の活動では、楽器・歌の技術向上やアンサンブルの理解といったポピュラーミュージックへの造詣を深めること他にも、楽器、電気・電子機器、音響、照明、楽曲創作（作詞、作曲、編曲）、DTM：など、音楽に関して興味を持つことや学べることはたくさんあります。

また、校内ライブや合同演奏会などのイベントを制作した場合は、その規模にもよりますが、企画&プロデュース、運営、マネタイズ、スケジュール管理、マーケティング、宣伝&広報、プログラムやポスター作成、アテンド：など、エンタメ業界を疑似体験することも可能です。もちろん、これらは音楽業界だけではなく、様々な業界で行われているイベントに転嫁することができます。

さらに、部長などの役割につけば、部員の士気を高め、団結力を強めるリーダーシップ、運営の方向性や持続を保つ行動力、部員の関係性を把握し、まとめていく責任感などが養われます。音響係、照明係、映像係、機材係、スケジュール係、連絡係、バンドリーダーといった、幹部職を経験することも同様に社会人としてのスキルを育む体験となります。言うまでもなく、これらは軽音楽部に限ったものではありませんが、一つの部活動の中にバンドという小単位のチームが複数あ

### 明るい未来を見せること

高校時代に社会との様々な接点を作り、視野を広げさせるとい意味では、普段から学校を飛び出して地域との関わりを持つことも有意義な活動となります。軽音楽部はバンドごとの少人数での行動が可能のため、地域のお祭りへの参加や高齢者施設への慰問などは他の部活動よりもハードルが低い場合もあります。

生徒たちが将来、社会に出た時に軽音楽部という部活動を通して得たものが「強み」となってくれること、明るい未来を見ることが、最も大きな「部活動のマネージメント」となるのではないのでしょうか。

文・辻 伸介

# 軽音楽部の理解と教育的意義を より広げるために

令和6年12月5日から6日にかけて、三重県四日市市四日市市文化会館において、第36回全国高等学校文化連盟研究大会三重県大会が開催されます。その中で、愛知県高等学校文化連盟（以下、愛知県高文連）から軽音楽専門部が実践発表とワークショップ形式の指導者研修会を行います。主な内容は「軽音楽部でのオリジナル曲制作の教育的意義」についてです。

## 愛知県の軽音楽専門部が発表

改めて振り返る必要はないと思いますが、全国高等学校文化連盟研究大会とは、全国高等学校文化連盟が文化庁と共同開催する、各都道府県高（芸）文連関係者、全国専門部関係者及び全国の文化部顧問が一堂に会して、日頃の文化部指導の成果や課題、組織運営について発表・研究協議する公益事業です（ホームページ転用）。毎回、様々な文化部活動についての研究発表の他、講演、ワークショップなどが行われています。

第36回となる三重県大会では、愛知県

高文連より軽音楽専門部が実践発表を行います。軽音楽専門部の発表は、平成29年の京都大会における大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会以来2度目のことであり、全国に軽音楽部の存在とその教育的意義を広くアピールする場となります。

軽音楽専門部からは、副部長である名古屋市長立名東高等学校の軽音楽部顧問、本多剛人教諭が「軽音楽部に期待される教育的意義〜オリジナル曲制作という独自性に立脚して〜」と題して、部活動としての軽音楽部の隆盛や愛知県高文連軽音楽専門部設置への経緯、オリジナル楽曲制作の独自性と教育的意義などについて、ご自身の経験や過去の経緯などを踏まえて発表されます。

加えて、指導者研修会（分科会）のワークショップでは、NPO法人全国学校軽音楽部協会（以下、軽音協）の辻伸介副理事長が愛知県高文連軽音楽専門部からの依頼を受け、オリジナル曲制作についての音楽的解説と、スマートフォンやタブレットによる初歩的な作詞作曲を、参加者の皆さんに実際に行っていたく予定です。

## 軽音楽部の意義とは

今回の三重県大会では、当協会も数年前から軽音楽連盟及び愛知県高文連軽音楽専門部の設立と発展に協力してきた愛知県が、全国に軽音楽部の素晴らしさを伝えられるチャンスともなるため、感慨もひとしおです。

我々は、軽音楽部の教育的意義や文部科学省が掲げる「次世代の日本人像」としての社会経験への活用を常に訴えてきました。バンドという少人数で生徒自ら音楽を仕上げていくこと…。そこには、社会人として大切なスキルである「コミュニケーション（協調性、意思疎通）」「チームワーク（共同作業、団体行動）」「クリエイティブ（創作力、独創力）」、そして「エンターテイメント（表現、受け手側の満足度）」といった、教科だけでは学べないことを経験できる環境があります。

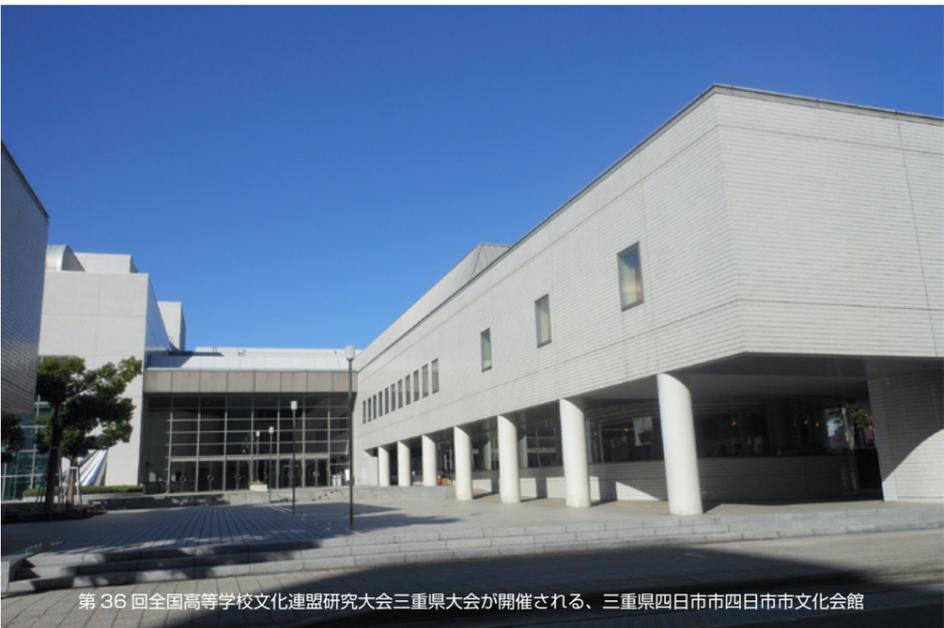
そもそも、部活動はそういった主旨のもとに行われているものですが、上意下達で画一的な社会から、個性、多様性など、個人のスキルや行動力がより重視さ

れる現代においては、これまで以上に自主性や先に挙げた4つの力が必要不可欠になっていきます。

軽音楽部が多様性も兼ね備えている部分とも言えますが、楽器の習得やバンド活動だけではなく、楽曲創作、音響、照明、イベント制作など、様々な体験も可能です。中でも、オリジナル曲を創作するという点においては、他の部活動にはあまり見られない特殊性と言っても過言ではありません。それは、無から有を生むということ、0から1を生むという創作活動を個人ではなく、バンドメンバー間での話し合いや協議で行っていくということに表れています。

## 軽音楽部の立ち位置

文化部と運動部との大きな違いの1つに、この「創作性」があります。運動部には基本的に創作性はありません。練習方法や上達への工夫にそれぞれアイデアを出し、切磋琢磨しているとは思いますが、魔球や必殺シュートを創作すること



第36回全国高等学校文化連盟研究大会三重県大会が開催される、三重県四日市市四日市市文化会館

でもクリエイティブな活動はあると思います。バンドという複数名のチームに分かれて作品を作り上げるという点は、軽音楽部が他の文化部と異なる部分です。

また、音楽系部活動の中でもその創作性が軽音楽部の独自性を表しています。学校によって名称や内容に違いはあるかもしれませんが、一般的に管弦楽部や器楽部はオーケストラでクラシック音楽の演奏を行う部活動です。吹奏楽部は、ポップス（ロック）を演奏する場合もありますが、もともとはビッグバンドジャズ、スイングバンドジャズの演奏を行う部活動です。そして、軽音楽部はロックという音楽が土台です。

はありません。個人的にはそんな部活動もあつたら面白いとは思いますが…。

文化部には、囲碁・将棋、ゲームなどの勝敗を競うマインドスポーツな部活動もありませんが、基本的には文化の継承、芸術の創作、研究、公益などが主な活動です。中には、絵画や漫画、イラスト、映画、演劇、ダンスなどの他、書道部や華道部など

誕生した比較的新しい音楽ですが、自らソングライティングし、歌ったり演奏するスタイルが大きな特徴です。音楽部の中でも、合唱部や日本音楽部、ギター部（クラシックギター、フォークギター）などを含めても、オリジナル曲をバンドで

創作することは基本的になく、軽音楽部の特徴と言えます。運動部でのチームワークや団体意識、文化部での研究心と創作性を育めるハイブリッドな部活動が軽音楽部なのです。

## 楽曲創作で学べること

オリジナル曲の創作には、歌詞とメロディの創作、コード進行の選定、各楽器のフレーズや音色、テンポ、グルーブ、ダイナミクス、アーティキュレーションの決定などが必要です。そのためには音楽的な知識が必要ですが、楽曲の土台となる歌詞とメロディの創作は少しのルールを理解すれば、誰にでも簡単に行うことができます。

高校生が楽曲創作に興味を持つ最大の理由は「自己表現」です。今やインターネットで言いたいことは世界中に発信できる時代ですが、メロディをつけて音楽に乗せた方が言いやすく、伝わりやすくなります。作文や詩を書くことが苦手で、歌詞なら書けるという生徒も少なくありません。国語の授業として取り入れられている学校もあるようです。

そして、部活動の中では誰かが生んだ「1」を他の誰かが膨らませて「2や3」にしていくという共同作業にも独自性があり、単なる創作ではなく連携と協調性をより育むこととなります。

また、多くの文化部の場合、完成した作品や演奏は閲覧、観覧、鑑賞されますが、軽音楽部では、その発表の場も「作品」のうちに入ることがあります。ライブス

テージは、単に演奏を聴いてもらう発表会の場ではなく、視覚的にも観客に楽しんでもらうエンターテイメント性も考慮していきます。誤解を避けるため強調しておきますが、それは大騒ぎをするという意味ではなく、観客にメッセージをより伝えるための表現と、その満足度についてメンバー間で協議して「創作」するという意味です。

もちろん、既存の楽曲をコピーして演奏する上でも、様々な学びがあります。アーティストがどんな意図や気持ちでその楽曲を作り、どんなメッセージが込められているのか…。正解があやふやなものに対してメンバーで話し合っって演奏の方向性を決めていくことも立派な創作です。どちらにしても、ポイントとは他の音楽系部活動のように演奏をまとめていくのがコンダクター（指揮者、監督）ではなく、自分たち自身だということです。

## より軽音楽部の理解を

令和6年現在、全国高等学校文化連盟に軽音楽専門部は設置されていません。各都道府県の高等学校文化連盟に軽音楽専門部が設置されているのは19都道府県で、まだまだ軽音楽部が全国規模とは言えない状況です。軽音楽部や文化部の教育的意義をより深くご理解いただくために、中部地方の方はもちろん、全国から三重県大会にご参加いただく皆様、実践発表とワークショップにご期待ください。

# 大会の「効果」と「注意点」

## 前編

### 時代とともに変化する「個性」と「勝敗」の考え方

昭和、平成、令和と、社会や一般常識は大きく変化しています。教育の環境である部活動も時代に合った運営が求められる中、活動や在り方そのものに警鐘を鳴らす意見も聞こえてきます。特に「大会」については、その効果と注意点が議論されることも近年多くなっています。そういったジレンマを2回に渡って考察するべく、今回は序章として、時代の変化における大会の在り方について考えていこうと思います。

#### 激変する日本の「常識」

時代による変化は、国の仕組みや社会思想、経済思想といった、歴史の教科書に出てくるようなことばかりではありません。一般市民である我々の生活においても、働き方、ジェンダー、夫婦や家族の在り方などに関する常識は、ここ数十年でかなり変わっています。

高校生をはじめとした学生たちにとっても、教育、受験、進学、就職、そして部活動についての変化は目まぐるしいものがあります。社会思想や経済思想ほど

の変化ではないと思われるかもしれませんが、戦後復興から高度成長、バブルへと流れた昭和期の詰め込み型教育や受験戦争と、失われた30年とも言われる長引く不況下に加え、アナログからデジタル、グローバル化が進む令和の「対話と思考」を大事にする現在とでは、土台となる考え方に大きな違いがあります。

社会的に見ても、昭和の時代までは美徳とされてきた我慢や寡黙は、もう死語です。モレツサラリーマンや「おしん」は、もういません。かつては不品行感があつた転職や離婚も否定的ではなくなり、意見や気持ちは自由にインターネットで世界中に発信することが出来ます。

日本の教育の是非を語るつもりはありませんが、記憶型から思考・行動型にシフトしていることは確かです。文科省はそれを「生きる力」と称して基本的な方向としています。

「時代遅れ」は教育現場で最も避けたいことの1つです。時代の変化にアンテナを張っておくべきなのは子供たちでしょうか、大人の方でしょうか。時代遅れの

自由主義や民主主義の本質は日本人の誰にも見えていないような、未だ全員が手探り状態であるような感じがしています。

個性を大事にするということは、人に優劣をつけないということ。かつての「ゆとり教育」は、個を大事にする教育方針の表れでしたが、間違つた解釈や運用からか、賛同が得られず、方向転換を余儀なくされました。運動会の徒競走で手をつないでゴールするといったやり方は当時、賛否両論ありましたが、個を大事にすることは大きく違います。

優劣をつけないということは、順位を

男がかつこ良かったのは昭和の話です。

#### 「個」に対する考え方の変化

この数十年で常識が大きく変わったと思うのは「個」に関することです。島国社会の日本人は、以前から保守的で全体主義的な民族だと言われてきました。しかし、そんな日本人が今では「個人」「個性」を大事にし、「多様性」を認めていくという方向に舵を切っています。舵を切っているという表現は、それらが民衆の中から自然発生的に生まれてきたというよりも、世界の国々と同調し、グローバルな感覚にアップデートしなければならぬという動きの方が大きいと感じるからです。

この「個を大事にする」という感覚は、まさに近代の「個人主義」に基づいています。名前1つをとつても、かつて「家」が中心だった日本では、結婚や就労も家の方針に従うことが当たり前で、名前は成長や家業の立場、地位によって変わるものでした。それらは歌舞伎などの伝統芸能に「襲名」というシステムで残っています。明治以降、

つけないということではなく、足の速い遅いが良い悪いを決めることではないと理解させることです。1位はすごいことだけど、2位でもビリでもまったく問題ない、悔しいという子がいれば、次は頑張ろうと応援し、走るの嫌いだという子がいれば、そんな気持ちを認めてあげると。個を大事にするとは、そういったことなのではないでしょうか。

#### 変わりつつある「競技」の在り方

そもそも、文化芸術に優劣はありません。部活動の在り方が問われている中、文化部こそ、その本質を見直すべきだと感じます。

各校で軽音楽部が活発になれば、活動を広げるという意味で他校との交流も盛んになります。それ自体は素晴らしいことですが、この時点で大なり小なり、すでに「比較」が始まります。人間は、どうも比較対象の相手が現れると、どちらが優秀かを決めたがるよう……。そうなると思いたくありません。

他山の石、人の振り見て我が振り直せといったことわざのように、自分、あるいは自分たちの成長のために他者を参考にしたいことはとても大切です。しかし、どちらが優れているのか、うまいとかといった話になると、向かう目的地が変わってきます。誰しも、下を見て安心するといった感覚や、上を見て「どうせあれは……」と負け惜しむことはあると思います。しかし、そんな気持ちはいずれ、マウントを取る、虚勢を張る、相手を蔑む、誰かのせ

名前はその人固有のものとなり、改名は簡単にできなくなりました。現代では、慎重論も多い中、夫婦別姓も検討されるほど、考え方は変わっています。

#### 個性とは何か……

10代になると、自分という存在への意識が強くなり、他者や社会との関係をより自覚し始めます。アイデンティティの芽生えと言っても良いのかもしれませんが、自己主張や承認欲求など、他者との比較で悩み、苦しみます。それが青春だと言ってしまうほど簡単ですが、そのうっぶんが悪い方向へ行かないようにすることも、社会や大人の大事な役割です。

「個性を伸ばす」という表現には、誤解があると考えています。十人十色、桜梅桃李などの言葉で表されるように、個性は育てるものではなく、最初から存在しているもので、成長とともに勝手に伸びていくものです。個性を伸ばしたければ、邪魔をしないことが一番です。かつての日本の学校の多くは、そんな

いにする……といった、ネガティブな思考と言動に転化しやすいものです。

芽生え始めたアイデンティティを負の方向ではなく、上を見て頑張れる、他者をリスペクトできるような思考に向けてあげることが大人の役目であり、教育の場にあつて欲しいことです。教科の方ではテストや受験などで優劣を競い、社会に出てからも面接や審査、仕事内容などで常に競い合うのが世の中です。少なくとも部活動はギスギスせずに楽しく様々なことを経験したり、学んでほしいと思っています。

現在では、勝敗を決めることが前提のスポーツの世界でも、大会を行わない、順位をつけない……という開催の方法が始まっています。対戦相手は敵ではなく、勝敗はただの結果であり、その競技を楽しむ、自分の努力と能力に対して自己評価し、自分よりも優れていると感じる相手には惜しみないリスペクトをする……。現代的な1つの理想形とも言えます。近年のメジャーリーグやオリンピック／パラリンピック、甲子園の出場校などを見ると、過去の時代とは異なる感覚を覚えます。ダンスやスケートボード、ゲームまでもが「競技」になっていく反面、試合を楽しみ、お互いをたたえあう若者たちを見ると、時代の変化を感じます。

軽音楽部も、大きな大会が開催されることも多くなっています。今回は、軽音楽部の大会における勝ち負けや、その効果と注視点について考えてみたいと思います。

文・辻 伸介



#### 順位をつけない

ことまで!?というユニークな校則を作つて個を制限してきました。ルールを守らせることと、個性を認めず画一的な教育をすることは似て非なるものです。このあたりのバランス取りは難しく、立場の違いによっても考え方は千差万別だと思えますが、昭和の時代は間違いなく教育が画一的な方向でした。

戦後の文部省(現・文科省)も、紆余曲折々に教育方針を探ってきましたが、

# 活動内容に精通した先生の指導法 (第3回)

丁寧に指導をしているのに生徒がなかなか育たない、と感じたことはありませんか？しかし、先生の細やかな指導が、逆に生徒の成長を妨げているのかもしれない。今回は約70年前の「木登りの名人」の例を参考に、指導法について考えます。

第2回では、部活動の内容に詳しくない先生の指導を取り上げましたが、第3回では、部活動の内容に精通した先生の指導について考えます。

先生が活動内容に関する経験が豊富でスキルが高い場合、第1回のSL理論でいうところの教示型や説得型のようなティーチングが必要な領域での対応に自信を持って取り組むことができるでしょう。専門性が高いことで、先生としては指導の幅が広がりますし、教わる生徒としても初期の技術的な立ち上がりが早くなることでしょう。

しかし、一方で、経験豊富な先生が気をつけるべきポイントは、精通しているが故に陥ってしまう過度なティーチング、つまり「教えすぎ」です。

## 約70年前の木登りの名人に学ぶ

ここで、経験豊富な先生の例として、『徒然草』第百九段に出てくる木登りの名人について、概要をご紹介します。「ある木登りの名人は、高い木に登って梢を切っている人に対して、危険そうに見える場所にいる間は何も言わず、軒の高さまで降りてきた時に『怪我をしないように気をつけて降りなさい』と声をかけた。『なぜ、このタイミングで注意したのですか』と尋ねたところ、『危ない場所では自分で気をつけるので何も言う必要はないですが、事故は安全な場所でも気が緩んだ時にこそ起こるものです』と答えた」という逸話です。

経験や知識が豊富にあると、生徒の成長を見守るよりも、詳細な指示を出してしまいがちです。しかし、指示しすぎてしまうと、生徒が自分で考え、試行錯誤する機会を奪ってしまいます。第2回で、先生にとって大事なことは、生徒の成長を支援することだと確認しました。その観点から考えると、木登りの名人のように、指示はポイントを絞って最小限にとどめ、生徒が独自の解決策を見つけることを助け、必要な時だけ支援することが大切です。

さらに、生徒の成長のためには、先回りした指導でトラブルの原因を取り除かず、失敗する可能性があることにチャレンジさせてあげることも重要です。チャレンジの経験を通じて、生徒は自らの課題を認識し、それを克服する力を身につけようと努力するからです。指導者としては、その過程を辛抱強くサポートする姿勢が求められます。もちろん、取り返しのつかない失敗を防いであげる必要はあるでしょう。ある青少年野外活動団体のスタッフの例をご紹介しますと、彼は木登りをしたがる子を危険だからと静置したりせず、その子の真下でさりげなく見守って、木から落下してきた時にキャッチできるようなスタンバイするそうです。これは、すべての人にできる対応ではありませんが、リスクヘッジをしつつチャレンジを見守るスタンスは、部活動の指導でも見習うべきでしょう。

知識があるとティーチングする方が楽なケースが多いため、リスクを回避し過ぎてティーチングに「逃げる」部分もあるかもしれません。しかし、内容に精通しているならば重要なポイントがわかるはずですので、ティーチングは真に必要なことにとどめ、コーチングを中心とした指導を心がけるのが良いでしょう。もちろん、ティーチングとコーチングのバランスは、指導者や生徒が考える部活動の目的によって大きく変わります。例えば、高校野球の大会で優秀な成績を

## ティーチングに逃げない

残すことを目的としている場合は、ティーチングの割合を増やして詰め込みの指導を行なった方が結果が出やすいかもしれません。しかし、軽音楽部で一定程度のスキルの習得や、全国学校軽音楽部協会が活動理念に掲げるような「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティブティ」といった社会が求める能力を持つ人材を育成することを目的とした場合は、生徒の成熟度に合わせてコーチングの割合を増やして、生徒たちの自主性を育てる方が良い結果が期待できそうです。

## 連載(全3回)の振り返り

最後に、全3回の内容を簡単に振り返ります。第1回では、SL理論をベースに、生徒の「成熟度」に合わせてリーダーシップのスタイルを変えることが重要であることを述べました。第2回では、専門性に不安のある先生を例に、ティーチングの領域を生徒をはじめとする外部に任せるとの大切さを、第3回では、部活動の内容に精通した先生を例に、ティーチングとコーチングのバランスを取るこの大切さを、それぞれお伝えしました。いずれの場合も、先生が意識すべきは、コーチングであると言えるでしょう。

先生方が部活動で生徒の成長を支援される際に、この3回の連載で学ばれたことを少しでもご活用いただけますと幸いです。

文：大田栄司

# 正解のない時代に主体的な学びを促す芸術文化系部活動 多様な才能を育む 評価基準とは……

「VUCA\*の時代」と呼ばれるこれからの社会においては、過去の成功体験や常識が通用しないことが多く、予測不可能な変化へ柔軟に対応することが求められます。これは学校教育の現場や部活動においても同様です。生徒たちの成長を促し、多様な才能を引き出すためには、柔軟で多角的な評価システムが不可欠です。本稿では、軽音楽部を例にVUCAの時代に求められる新しい部活動の形、「シン軽音楽部」の評価基準を探ります。

部活動は学校教育の一環として、生徒の人間の成長を促すことを目的としています。楽器演奏の技術向上も重要ですが、それ以上に協調性や責任感、コミュニケーション能力など、社会で生きていく上で必要な力を養うことが求められます。従来の軽音楽部におけるコンテストでは、演奏技術や楽曲の難易度などが主な評価基準となってきました。しかし、これらの基準は必ずしも生徒の成長や音楽の楽しさを測るものではありません。また、文化や芸術に優劣を付けること自体がナンセンスであるという意見も根強く存在します。

## 従来の評価基準の限界と新たな視点

コンテストでの勝敗に一喜一憂するのではなく、部活動全体で成長できるような環境を整えることが重要です。吹奏楽や合唱、美術や写真など、他の文化・芸術系の部活動におけるコンテストの審査基準を比較検討することは、軽音楽部の評価基準を考える上で重要なヒントになります。もしかすると、同じ問題を抱えているかもしれません。他の文化部活動との共通点や相違点を分析することで、軽音楽部独自の評価基準を生み出すことも十分に考えられます。

また、ICTを活用することで、より客観的で多角的な評価ができるようになります。スマートフォンアプリを利用して、観客が演奏をリアルタイムで評価し、その結果を総合的に集計する方法も考えられるでしょう。この方法であれば、多くの人の意見を反映することができ、より客観的な評価が可能になるほか、SNSを活用して、演奏動画を公開し、一般の人々からの意見を募ることも考えられます。

## 文化部における評価基準の可能性

「シン軽音楽部」では、単に演奏技術の優劣を競ったり、楽曲を演奏するだけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、創造性など、多岐にわたる能力を養う場となります。また、音楽やバンド活動を通して、生徒たちが社会とのつながりを深め、自己実現を果たすことができる場としても期待されます。

多様な評価基準…演奏技術だけでなく、楽曲の選曲やステージング、観客との一体感、さらには、部員一人ひとりの成長や部全体の協働体制など、多角的な視点から評価します。

全員参加型のステージ…ステージに立つのは一部のメンバーだけでなく、全員が役割を持ち、協力してステージを作り上げるために、司会や照明、舞台補助などの役割も評価に加えることで、全員が主体的に参加できます。

観客参加型…観客が審査に参加することで、よりエンターテイメント性が高まり、生徒たちのモチベーションの向上にもつながります。ICT活用…スマートフォンアプリやSNSを活用することで手軽に評価を行い、結果を共有することができます。

## シン軽音楽部は生徒の成長を促す場



VUCA (ブーカ): Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)の頭文字を取った言葉で、現代社会が複雑化し、不確実性が高まっていることを意味します。

特に芸術文化系部活動は運動部と異なり、絶対で客観的な評価基準が存在しないので、多様な表現を認め、評価することが可能です。この多様性を尊重することで、生徒一人ひとりの個性や才能を伸ばし、自己肯定感を高めることにつながります。このことを踏まえ、生徒たちの創造性を尊重し、それぞれが持つ個性を最大限に引き出すような新しい評価システムを構築することが重要です。

文：三谷佳之

軽音  
ちゃん  
ねる



# 出場バンドの演奏映像を YouTubeで公開中!

2020年から最新の夏大会（2024年）まで、全国学校軽音楽部協会主催の大会に出場した583バンドの演奏映像を視聴できます。プロジェクターで動画を映し出したり、部のPAシステムで音声を大きく出力するなどして意見交換や検証を行うなど、部活動全体はもちろん、各バンドや個人でも、他校のバンドから学び、演奏技術やパフォーマンス、ステージでの振る舞いの参考に活用してください。



QRコードを読み取って、チェック!

**第15回**  
**愛知県高等学校軽音楽大会**  
30 バンド

**第5回**  
**高等学校軽音楽コンテスト 関東大会**  
25 バンド

**第8回**  
**高等学校軽音楽コンテスト 近畿北陸大会**  
19 バンド

**第10回**  
**高等学校軽音楽コンテスト 中部大会**  
20 バンド

**第1回**  
**高等学校軽音楽文化祭 国際大会**  
8 バンド

**配布校リスト**

全国の高等学校 2,040校の軽音楽系部活動の顧問あてに無料配布しています

現在の配布校リストはQRコードからご覧いただけます

**次号予告**

※表紙はサンプルです

**10月25日(金)発行**

次号は

**Event Calender** お問い合わせ: info@keionkyo.org TEL: 045-913-0901

**軽音楽学セミナー**

11月16日(土) 会場: 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー (オリジナル曲制作講座)

12月21日(土) 会場: 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー (オリジナル曲アレンジ講座)

**軽音合同演奏会**

11月9日(土)・10日(日) 会場: 昭和音楽大学 **満員御礼**

12月7日(土) 会場: 専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー (第15回 愛知県高等学校軽音楽大会/バンドクリニック)

2月1日(土) 会場: 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー (オリジナル曲限定)

**その他**

第2回 全国高等学校軽音楽部 オリジナルソング・グランプリ 締切: 10/31

12月5日(木) 6日(金) 全国高等学校文化連盟/研究発表大会 (開催地: 三重県)

12月25日(水) 第15回 愛知県高等学校軽音楽大会

3月25日(火) 第6回 高等学校軽音楽コンテスト関東大会

**協会主催の春の3大会に向けて**

楽器がなくてもできる **基礎力アップ術!**

歌や楽器の上達も運動や勉強と同じで基礎力が大切です。いつでもどこでもできる身体的なトレーニングでフィジカルを鍛えて基礎力アップにつなげよう。

右のQRコードから記事を読むことができます

軽音楽部とはどんな部活動なのか、毎日の練習はどんなことをするのか、軽音楽部に入るとどんなものが必要になるのか...など、新入部員必見の定番記事をデジタル版としてアップデートしました。QRコードにアクセスしてお読みください。

**今月の新着コンテンツ**

**未常識**

ファーストペンギンは鶏口牛後を心に誓う

三谷佳之 著

未常識とは未だ常識になっていないこと。世間の常識になる前は常識ハズレなこととして見過ごされるが、視点や考え方を変えると前代未聞、前人未到、空前絶後の道が開ける。考え方を考える100選。

価格: 1,500円(税別) 電子書籍: 1,200円(税別)

Amazonで発売中!

**成功と失敗**

考え方の分岐点

三谷佳之 著

成功と失敗。いろいろな岐路に立った際、どの考え方を選択するかで結果は大きく分かります。成功と失敗を分けるほんの少しの考え方の違いを対比で紹介する珠玉の100選。

価格: 1,500円(税別) 電子書籍: 1,200円(税別)

Amazonで発売中!

株式会社ミュージックネットワーク 未常識プロジェクト (自己啓発事業部)

# エンタメ&クリエイティブの専門学校



## VISUAL ARTS

東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

ビジュアルアーツ・アカデミー

## ACADEMY

Akademeia 21st Century



ミュージシャン  
声優・俳優・タレント  
ダンス・ダンスボーカル  
ネットタレント・インフルエンサー  
映像クリエイター (3DCG・VFX)  
テレビ放送・映画スタッフ  
コンサート・舞台スタッフ  
レコーディングエンジニア  
サウンドクリエイター  
映像音響 (MAエンジニア)  
写真・デザイン  
マスコミ出版  
芸能マネージャー  
特殊メイク

※地区によって教育分野が異なります

大学も専門学校も超える新たな学びの場



## 仕事は周りの人との対話が大切です

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はサウンドクリエイターの仕事について、専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミーの榎木先生に伺いました。

ー サウンドクリエイターの仕事について教えてください

**榎木:** 「音楽を作る仕事」というのは次の2つに分類することができます。1つは作曲をメインとする「コンポーザー」という職種で、自身の楽曲を制作したり、第三者に提供するなど、純粋に曲を作る仕事のことを言います。もう1つはゲームやアニメをはじめ、映画やCMなど、ある作品に付随した音楽全般を作る仕事で、そこに従事する人たちのことを「サウンドクリエイター」と総称しています。ここ数年、サウンドクリエイターを志望する学生が増えているのですが、人気の背景にあるのは、SNSをはじめとするツールでの「動画投稿」にあると思います。例えば、米津玄師さんが好例だと思うのですが、「良い歌だな…」というところから始まり、「この人はどういう仕事をしているんだろう?」とか「普段は何をやっているんだろう?」という風に調べてみると、自身で歌って、作曲をして、編曲をして、動画を編集して…と、すべてをこなしているんですね。そういった部分からも、サウンドクリエイターという職種が身近に感じられているのではないかと思います。

ー 入学前に、ある程度の演奏スキルや知識は必要ですか?

**榎木:** 専門学校は何も知らない状態で入学しても、しっかりと授業を通じて指導し、卒業させる…というのが1つの目的ですので、特に必須の知識やスキルというのはありません。ただ、「あれば良いな…」というスキルはあって、例えば、パソコンで作曲をするので、パソコンの操作に慣れていないと、最初の段階で戸惑ってしまうかもしれません。音楽ソフトでなくても良いので、「パソコンの基本的な

操作に慣れておく」というのは、やっておいの方が良いと思います。

ー この仕事の楽しいところや、やりがいを教えてください

**榎木:** 音楽が好きで、作曲に興味があって…ということで就く職業ですので、まず仕事そのものが楽しいと思います(笑)。やりがいの部分で言いますと、いろいろな人たちに自身の音楽を聴いてもらうことになるので、そこも楽しいと感じる点ではないでしょうか。

ー この仕事の大変なところを教えてください

**榎木:** 作品に携わるという立場上、「締め切り」のある仕事なので、どうしても時間に追われてしまうという部分では、大変に感じることもあります。また、一から作品を生み出さなくては行けないので、どうしても煮詰まったり、アイデアが思い付かないという時にも大変な思いをすることがあります。

ー この仕事は、どんな人にオススメですか?

**榎木:** ネットサーフィンが得意な人にオススメです。例えば、何か気になることがあったら調べ物をしたり、物事を掘り下げていける人というのが、作曲の仕事に向いていると思います。というのも、曲が出来上がったら、「はい、おしまい」ではなく、そこから何回も「こうしたら良いんじゃないか?」とか「こっちの方がもっと素敵かも…」という風に見直しをしたり、改善を繰り返していくことになります。「はい、曲が完成した!さあ、次だ!」というのではなく、どんどんと掘り下げていける人の方が性格的にも合っていると思います。

ー もの仕事が続けるのに大切なことは何で

しょうか。3つほど教えてください

**榎木:** 1つ目は「コミュニケーション能力」です。意外と作曲やモノを作る仕事というのは自分一人でやるイメージがあるかもしれませんが、実はたくさんの人たちとコミュニケーションを取りながら進めていくことになるので、周りの人と対話をしながら仕事にあたるのが大切です。

2つ目は言い方が難しいのですが、「頑固さ」のようなものが必要になります。繰り返しになりますが、いろいろな人たちと関わることになるので、当然、様々な意見を聞くこととなります。音楽は人によって捉え方や好みが変わるものなので、その際に自分自身の中に「芯」がないと、「自分はどのような作品を作りたいのか?」ということを見失いがちになるので、そういう意味での、頑固さが必要だと思います。

3つ目は「持続する力」です。ここ数年、サウンドクリエイターの人気が高まっているほか、定年というのがなく、ずっと続けていくことができる仕事なので、人数も増えています。そういった中で、簡単に辞めることはできませんが、ある1つのことがうまくいかなかったからといって、そこですぐに諦めるのではなく、どんどん努力を重ね、ずっと続けていくことが大切なので、持続力も必要な要素の1つだと思います。



▲ゲームやアニメなどに付随した音楽を作る仕事です